

福知山市住民自治検討会議（第2回）概要報告

〔日 時〕平成29年10月17日（火）15:00～17:00

〔場 所〕福知山市役所6階 601号室

〔出席者〕委員…11人、事務局…8人（別紙のとおり）

傍聴者…6人

■議事

（1）前回のふりかえり

事務局から説明

（2）「地域の組織のあり方」

①地域協議会の取組みについて

三和地域協議会・夜久野みらいまちづくり協議会・大江まちづくり住民協議会それぞれ会長（委員）から資料に基づき説明いただいた。

【質疑・意見等】

- ・3つの協議会はそれぞれ、違ったタイプの組織だと認識した。三和地域協議会は、地域公共交通など事業実施型。現在の夜久野みらいまちづくり協議会は中間支援型であり、大江まちづくり住民協議会は経済活動を見据えたコミュニティビジネスに踏み込んでいる。
- ・活動の話聞くたびに、自分たちでもできたらとうらやましく思うことはあるが、旧市内で同じようにできるとは思えない。
- ・小学校区単位でのまとまりは、自治会長や地区公民館がしっかりと担っており、つながりが強い。例えば、六人部では小学校が統廃合され1つになるが、そうであっても実際の活動は現在の3つの小学校単位で行われるのではないか。
- ・旧3町が中学校単位で1つになれたのは、支所があることもそうだが、教育、文化、福祉、商工、観光などまちづくりを担う組織や機能が全てそのエリアを対象として整っていたことが大きいのではないか。

②公民館について

市事務局（生涯学習課長）より資料のとおり説明

- ・福知山市の地区公民館活動は40年の歴史があり、自治会組織と一体となり地区内の各種地域活動組織が集約され自主的に組織し運営されている。公民館活動としてここまで地域に根を張り全市的に機能している仕組みは、全国的にも特徴的で先進的成功例だと考えている。

【質疑・意見等】

- ・地区公民館ごとに活発に活動されており、それを自治会が基盤となって支えている。
- ・市民協働推進会議での地域づくり組織の議論の出発点は、自治会活動や担い手に限界が来ているという現状からだった。
- ・自治会で担い手がなくなるのであれば、より大きな範囲でまとめ、地域の人や仕事の配分などを考え補完し合う必要がある。その範囲や単位についての考え方をどうするか。
- ・今自治会や他の組織がどれだけの仕事をしているのか、地域の活動と現状をまずしっかりと把握することが重要。それにより、自治会が担うべきか、協議会が担うのか、行政が担うべきかといった議論もできる。
- ・小さな集落はいっぱいあるが、それらが、隣の集落と一緒にやろうという議論にはなかなかならない。理想は分かっているけど、それをどう進めればいいのかは分からない。
- ・例えば、堤防の近くの自治会であれば、「水害」という共通の課題をすぐに共有することはできる。
- ・なかなか全体が一緒になることが難しいのであれば、共有できる機能やテーマでだけ連携するという工夫はあり得るだろう。
- ・こういった場のように愚痴も交えながら話し合い、本当にどうしようもないことから手を付けていくというののもいいかもしれない。
- ・アメリカの自治体には、行政がすべき仕事を選択できるところもある。このまちでは警察と消防のみなど。行政、自治会、公民館、協議会などの役割を明確にする必要がある
- ・地域のあり方は三者三様であるため、それぞれの地域は現状も課題も違う。地域でどう支えあうのか、それを軸に話しあうことが求められる。
- ・今後、自治会や公民館の活動がこのままでやっていけるのか、どうやって担い手を確保するのか、というところを共通認識として、さらに深めていきたいと考える。

■次回の日程

- ・11月14日（火）10時～ 市民交流プラザふくちやま